

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。  
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を  
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ  
 どよろしくお願い申し上げます。

敬 白

### 記

#### ■実施日

2016年2月15日(月) ご依頼分より

#### ■新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
7134 (5A100)	Gly m 4 (大豆由来)	血清 0.3	↓ X	冷蔵 (14日)	2~4	110 ※5	FEIA	陰性 0.34以下 (U <sub>A</sub> /mL)	判定基準は総合検査案内 をご参照ください。 &エ
7135 (5A100)	Hev b 6.02 (ラテックス由来)	血清 0.3	↓ X	冷蔵 (14日)	2~4	110 ※5	FEIA	陰性 0.34以下 (U <sub>A</sub> /mL)	判定基準は総合検査案内 をご参照ください。 &エ

※5：免疫学的検査判断料

#### ●特異的IgE (シングルアレルゲン) FEIA法 (判定基準)

クラス	特異的IgE抗体価 (U <sub>A</sub> /mL)	判定
0	0.34以下	陰性
1	0.35~0.69	疑陽性
2	0.70~3.49	陽性
3	3.50~17.4	
4	17.5~49.9	
5	50.0~99.9	
6	100以上	

## ●Gly m 4 (大豆由来)

Gly m 4 は大豆アレルゲンコンポーネント\*のうちの1つで、大豆のクラス2食物アレルギーの原因物質です。このタイプの大豆アレルギーは、原因がシラカンバやハンノキなどの花粉による吸入感作であり、共通抗原性がある大豆 (Gly m 4) を摂取した際に口腔症状などの様々なアレルギー症状を呈しますが、従来の特異的IgE (大豆) では、陰性と判定される場合があることが知られていました。しかし、本項目ではこれらの患者さんの多くを陽性として判定することが可能であり、大豆アレルギー診断補助に有用です。

\*アレルゲンコンポーネント：アレルギー原因物質から抽出されるタンパク質の中の単一のタンパク質

### ▼ 疾患との関連

食餌性アレルギー

### ▼ 関連する主な検査項目

特異的IgE(シングルアレルゲン)  
大豆、シラカンバ、ハンノキ

## ● Hev b 6.02 (ラテックス由来)

Hev b 6.02 はラテックスアレルゲンコンポーネント(アレルギー原因物質から抽出されるタンパク質の中の単一タンパク質)の1つで、臨床的な特異度が、既存の特異的IgE (ラテックス)と比較して高いことが報告されています。そのため、従来の特異的IgE (ラテックス)では、臨床症状がない方を陽性と判定することもありましたが、本項目と組み合わせて測定をすることで、ラテックスアレルギーの診断補助に有用と考えられます。

### ▼ 疾患との関連

職業性アレルギー

### ▼ 関連する主な検査項目

特異的IgE(シングルアレルゲン) ラテックス

### ▼検査要項

検査項目名	Gly m 4 (大豆由来)	Hev b 6.02 (ラテックス由来)
項目コード No.	7134	7135
検体量	血清 0.3 mL	
容器	X (ポリスピッツ)	
保存方法	冷蔵保存してください	
所要日数	2~4日	
検査方法	FEIA	
基準値 (単位)	陰性 0.34 以下 (U <sub>A</sub> /mL)	
検査実施料	110点 (「D015」血漿蛋白免疫学的検査「11」)	
検査判断料	144点 (免疫学的検査)	
備考	判定基準は総合検査案内をご参照ください。	&工

### ●参考文献

奥田 勲, 他 : 医学検査 46 (10) : 1525~1530, 1997. (検査方法参考文献)

福田 恭子, 他 : J Environ Dermatol Cutan Allergol 1 (2) : 124~130, 2007. (Gly m 4(大豆由来))

Yagami A et al : Allergol Int 58 : 347~355, 2009. (Hev b 6.02(ラテックス由来))